



護廷十三隊 十番隊副隊長
松本 乱菊



元護廷十三隊 二番隊隊長
四楓院 夜一



第3十刃
ティア・ハリベル



志波家 当主
志波 空鶴

権力を振りかざし、
卑劣な手で他者の弱みを
握り、一方的に従わせる
男が居た・・・

これは、そんな男に
権力に屈し

その美貌を辱められ
恥辱に耐える彼女達の
ほんの一節・・・



もつと口を窄めて下品な音を立てて吸え
・護廷十三隊の副隊長を務める者だろうと、ひとたびイチモツを啜えれば
無様な雌豚同然だな

牛のような乳も、たくさん子をひり出せそうなデカ尻も
男を誘うその生意気な顔も 俺に逢う日まで
健気に磨いてきたんだろ？

んっ じゅぶ じゅる
（んっ 抵抗しないと思っただけ好き勝手してっなんて下品な野郎）
（アンタなんかのめな訳ないでしょ）

そう睨むな
これからは死神としてではなく、
俺の女として奉仕する事だけを
考えていれば良いんだ

じゅる んぽう
（今は大人しくするしかないか）
（こんな変態の言ひなりになるなんて
反吐が出るけど 従ってるフリしか
出来る事が無いわね）

惚れた男がいたと聞いているが、
これほどスケベな雌を手元に置けぬ腑抜けなど
すぐに俺が忘れさせてやろう

んっ ぶ
（言わせておけば、こいつ）
（この汚いチ○ポ、干切ってやりたい）

どれ、そろそろ子種を馳走してやる
俺の女に選ばれた事を感じしながら、
一滴もこぼさず味わって飲み干せ

グポツグポ
ジュルルルルツ

んっ
んっ

んっ
んっ

ジュポツジュポ
グチュ チュルルツ

ふ ぶ ぶ
（これ、デカくなってる）
（このまま口の中に出す気なんだわ）
（最低なクスの精液を飲まされるなんて、考えただけで吐き気しどろ）

ジュル ジュプツジュプ スズンツ

くく。。あの四楓院に跪かせ奉仕させられる目が来ようとはな
その無様にしゃぶる顔を見るだけで勃起が止まらんぞ

ふ。。んぐ。。じゅるじゅる

(價でもあるう者がなんたる失態じゃ。。このような下郎に媚びる。。としか出来ぬとは。。)

おお。。たまらんな。。
四大貴族を喉の奥まで俺が征服しているぞ。。
老獺な女傑と言われたお前もこうしていれば可愛いものぢやないか

ん。。っ。。じゅるっ。。ぢゅるっ。。
ふん。。濡けた顔しおって
そのように浸れるのも今だけじゃぞ。。
この男には魂の髄まで後悔させねば。。

。。よし、決めたぞ、やはりお前は

俺の妻として娶ってやる
これからはその身体、指の先から髪の毛一本に至るまで
夫である俺に捧げ、生涯尽くせ

ん。。こ。。ぶ。。ラー

(價が貴様の妻じゃと。。?)

ふざけた事をほさきおって。。弱みを握らねば

女二人満足に抱けぬ虫ケラのような男が。。)

ぐ。。いかな 四楓院夜二を手に入れた喜びで

いつもより我慢が効かん

仕方ない、まずはその胃袋を夫の子種で満たしてやるう
愛おしそつた、味わって飲むと良い

んぼっ。。んぐ。。じゅぶっじゅぶ

(やっとか。。どうせ童のように情けなく果てるのじゃあ。。)

せいせい價に抜いてもつる一瞬の至福に溺れておれはよ。。)

ずるるるるる

ぢゅるるるるる

ん。。

ん。。

グチユツグチユ

グプ

ジュル

チュウ~~~~

ぐっ 出る・・・出るぞ！飲め！夜一ッ

ドクッ！ドクッ！ドクッ！ドクッ！ドクッ！ドクッ！ドクッ！ドクッ！ドクッ！ドクッ！

んっぐっ・ゴクッ・ゴクッ
（な、なんじゃ・・・この量と濃さ・・・）
チ○ポだけ馬や豚にでも化けておるのか？

はは・・・ッ リスのように俺の子種で頬を膨らませて・・・
お前に憧れている者達が
その面を見たらなんて思うだろうな

ドクッ・・・ドクッ・・・
うぐ・・・んぐッ・・・ゴクッゴクッ・・・じゅる
（どれだけ出すのじゃこの男は・・・）
このままでは腹が精液で溢れる・・・
絶倫と謳っていたがこれほどだとはの・・・

・・・ふーッ これまで終わりではないぞ 夜一
お前には妻としての務め 子作りに励んで貰う
夫婦として愛し合い、四楓院夜一はただの雌として
孕まされるのが一番の幸せとなるんだ
一晩として股が乾く目が来ると思うなよ

んっっ・・・んっ
（誰が貴様のような下衆の仔なんぞ・・・しかし打つ手が無い・・・）
こやつの子種を・・・どうせ薬など使って
本気で孕ませに来るに決まっておる・・・

産む仔が一人や二人と思うな？ 時間はいくらでもある
俺の子種をお前の胎で育てた子供で町一ツ埋めてやろうじゃないか
今から楽しみだな いずれ俺の子供を孕んでいないと
気が狂うような孕み妻になるまで種を仕込み続けてやる

んっっ・・・うっ・・・んぐ
（本当に俺はこの男の孕み妻になるしかないのか・・・）
まさか、この俺が・・・『夢なら醒めよ』などと思おう目が来ようとはな・・・



グプツ！グチユグチユ　グポツグポ　ヌチユツヌチユ。。

ガサツで品の無い女と聞いていたから期待していなかったが・・
とんでもなくスケベな身体をした雌じゃないかこれは良い拾い物をした

う。。んっほ　んほっじゅぶじゅぶ。。

この野郎・女をモノみたいに扱いやがって。。
すぐにもぶちのめしてやりたいけど。。
今は人らしく言う通りにしてやるしかないね。。

志波家といえは元は名門だったな
まあ、没落し今や俺のチ○ポを
しゃぶるくらいしか能のない
女に成り下がっているが

お前のような下賤な身分でも、
雌として俺に尽くすなら可愛がってやる
せいぜい俺の機嫌を損ねないように
男への媚び方でも学ぶんだな

ふー。。んっ

ちっ。。好き放題言ってくれるじゃないか
弱み握って威張るクソツタレなんか、
こちらから願って下けたってんだ

ジュルジュルツ　ジュプ　ジュポん

そろそろ二発目をくれてやる
優秀な男の子種を飲める事を感謝しながら
溢さず全て胃に収める

むじゅ。。じゅるじゅぼ。。んー

何か感謝だ。。こんなくっさいチ○ポしゃぶらされたって、
頭が疲れただけだっつての。。御託はいいからさっさと出しやがれ

ぬっ
ちゅっ
ちゅっ

んほっ

ちゅっ
ちゅっ

んほっ



ピュルツ〜ドクドクドク〜 プルン プルン プルン プルン

くも。。。んぷ。。。じゅ。。。ゴク。。。ゴクツ
な、なんだってんだい。。。これ。。。
小便みたいなの勢いで、舐みたいもん
出しゃがって。。。)

今日はまだどの女も抱いていないからな
それなりに濃いのが出てるだろう？

俺の精子が、お前の
身体の一部になっていくのを
感じながらじっくり味わえ

ピュルツ ドク ドク ドク。。。

ゴク。。。ゴク。。。ぶ。。。うらう。。。
だ、駄目だ。。。酷い匂いと。。。
精液が喉に絡みせて息が。。。
意識が飛びそうだった。。。)

ほお。。。生意気な目をしていた割に
素直に飲むじゃないか

そんなに俺の子種が気に入ったのなら、
暇つぶしに抱いてやるわ

運が良ければ俺の子供が産めるかもしれないぞ？
まあ、その子供で家の再興など認めんがな
美しい娘が産まれたら、母娘で犯してやるわ

く。。。ん。。。っ。。。
勝手な事を。。。ああ、屋敷のみんな。。。無事で済んでるぞ

お前
お前
お前

お前
お前
お前

お前
お前
お前

お前
お前
お前

ドチヤ。ドチヤドチヤ。ドチヤ。クチョ。

十刃などと畜生風情が随分と調子に乗ったな？
使い道のありそうな女の容姿だったから生かしてやっているんだ
丁寧に、俺への感謝を心に刻みながら奉仕しろ

先程までお前の部下 共を犯したせいで奴等の汁で汚れたんだ
全員処女だったから破瓜血の味もするだろう？ 元上司が責任として掃除するんだな
もちろん、奉仕の時は俺への賛辞も忘れるなよ 愛する主人に尽くせるんだからな

れる。れる。じめる。 はい。感謝お入りします。敬愛する御主人様。
これほどに逆しく素敵なへミスをお持ちの股方に可愛がってもらえるなど
雌として喜びに尽きません。

(第3十刃の私が、このような低俗な男の愚みにたいはなすまい)

部下の女共はな、貴様の名前をチラつかせれば
すぐに尻尾を振り始めたぞ？
貴様がよほど大事なのか？みな恥を捨て
股を開き俺に媚びる姿は無様だったな

本来なら拷問の後に標本にする所を、
俺が肉便器として飼ってやるんだ
どんな気分だ？十刃

れるお。れるられる

。部下共を救って頂き、その一歩を敵軍御一人様

ご奉仕する任を頂き、光栄の至りでございます。

アハッチ、ロース、スキャン。オマナ。

今は耐えてくれ。生かされ、必ず挽回してみせる。

この男の逆ひでつな一歩を貴様も人様を助かっ

ノロノロツ

チヒピロ
クククク。

あの3人もな 最初は生意気にも俺へ唾を吐いていたが
貴様を人質に処女を食ってやれば大人じくなつてな

その後俺の糞小便を這いつくばって啜らせた途端、悔しさで生娘のように泣き始めたわ
滑稽だったので、一人ずつ順番に犯して、余った二人に
俺の玉と尻の穴を吸わせる遊びをした時は、子犬の様に震えていたので思わず笑ってしまったぞ

さて。肉便器共にさんさん子種を吐いたせいか催してきたな..
どれ、貴様も使女としての務めを果たしもらおうか

ちめる。はい、勿論でございます 肉便器として御主人様のお小便、ありがたく頂戴致します

。私はどれほど辱められようと構わん この男の牙先が私に向けば、そのふん3人の負担が減る。。。



ズンボ。ズンボボボボボッ！

んふふ。ヨクヨクッヨク。ゲフッ。ヨク。ヨク。

（想像以上に高い気分だ。下方な男の小便を飲まされるこの感覚。屈辱で我を忘れそうになる。）

……ふー……

便女3人に糞を食わせてる間、酒を飲んでいたからよく出るな。貴様らの餌は俺の糞尿と子種だけだ。ありがたく味わって飲め。

俺の小便は美味いか？

卑しい肉便器には極上の馳走だろう。竿に残ってる分も吸い出して、キレイにしろ。

ズンボズンボ。ズンボ。ズンボ。

ヨク。ヨク。シユスス。ヨク。ヨク。ケケケ。……
。ご主人様のお小便、大変美味しかったです。
（吐き気まで目眩がして来た。これを毎回させられるのが命の危険は無いが、先が思いやられるな。）

そうかそうか。……
ところで、貴様の部下はみな処女だったが、貴様自信はどうなんだ？

。。。。正真正銘、処女で間違いないです。私ハリベルは、未だ男を知らぬ身体にございます。

あの3人もそうだが、男を漁っていきそうな見た目の割に意外と純情なのだな。……
いいだろう、貴様も奴等と同じく俺に純潔を捧げる名誉をくれてやる。
貴様の媚び方次第では、部下の調教に少しは情けをかけようじゃないか。
破面が仔を孕めるのかの実験台にでもしてやろう。

。。。。素敵な御主人様に純潔を捧げられて恐悅至極です。処女の身ではございますが、どうぞハリベルの身体で存分に御愉しみくださいませ。……
（私は耐える。……たとえ部様な醜態を晒そうと。部下の忠義に代るまで、この辱めに耐えてみせる。……）

















